

05・二人きりの保健室で、生太ももでお手手をコかれる&生お●んこ見せつけで限界媚びあま誘惑

へシチュエーション

シチュエーションは、主人公と鳴瀬が通う女子校の保健室。

時間帯は放課後で、他に利用者はおらず、養護教諭も用事で席を外している。

そんな中、鳴瀬を迎えに行った主人公は、彼女に誘われて一緒にベッドに入る。

そこで、キスをされたり、太ももを触らせてもらったり、セクシーな下着（ひもで結ぶショーツ）を見せつけられたり、事故で下着が脱げてしまい、性器を見せつけられたりしてたっぷり誘惑される。

場所移動はなし。鳴瀬はずっと保健室のベッドにいる。

SE1 保健室の環境音

【最初から最後まで流す】

【繰り返し流す】

【トラック終了まで流し続ける】

【0―5秒ほど流してSE2】

SE2 主人公の足音

【最初から最後まで流す】

【繰り返し流す】

【0—5秒ほど流して ▲1 で一度ストップする】

【▲2 で再開し、速度が一段階早くなる】

【▲3 でストップする】

▲1 ここで一度SE2がストップする

へボイス加工あり

● 3メートルほど離れた位置で

● 正面 50センチ

■カーテンを開けた状態で、保健室のベッドに入り、布団にくるまって主人公に声をかける。

それ以上出てこないのは、とある『仕掛け』があるから
「【少し眠そうだが、嬉しそうに。

本当は今すぐ抱きつきたい位嬉しい】

あゝ……♡

来たあ……♡
」

〈主人公〉

「先輩……！ お疲れ様です！」

▲2 ここで一度SE2が再開し、速度が一段階早くなる

主人公が近寄ってきた事により、距離が近づく。

●正面 30センチ 下50センチ

■身体は起こして、起き上がる。それでも、布団に入っただまま話す

「あまあまに、嬉しそうに。」

主人公の様子から、慌ててきてくれた事が伝わってきたので
「ありがと♡ 来てくれて」

〈主人公〉

「もちろん来ますよ……！ 大丈夫ですか？ 具合、悪いんですか？」

▲3 ここでS E 2がストップする

S E 2 主人公の足音

【最初から最後まで流す】

【次の『鳴瀬』のセリフと重ねて流す】

主人公がさらに近寄ってきた事により、距離が近づく。

●正面 30〜15センチ 下50センチ

■ベッドの前に立っている主人公へ、近づきながら話す

「『あまあまに、嬉しそうに。質問に答える。『優ちゅー優しい』
ん？

大した事ないからへーきだよ♡

ふふ、ほんとにすぐ来てくれたね。

優ちゅーね♡」

〈主人公〉

「そんなの、当たり前です……♡
じゃあ……寝不足、とかですか？」

● 正面 15センチ 下50センチ

■ ベッドの前に立っている主人公を見上げた状態で話す

「少し悩んで。だが、深刻そうではない感じで。

自分の状態について『どう伝えたものか』という感じ
で」
ん……。

えっとねえ？

寝不足っていうか。寝過ぎっていうかあ……。

何か、最近変な夢見ちやうんだあ。

だから、寝ても寝た気がしないっていうか……」

〈主人公〉

「えっ？ あっ。そ、そうなんですか……♡」

● 正面 15センチ 下50センチ

■ ベッドの前に立っている主人公を見上げた状態で話す。

主人公がなぜかしどろもどろで、その上どこか照れた様子な事に気づいているが、今は触れない

「『どう話したらいいのかなあ……』という感じで」

うん。何（なん）かねえ？」

〈主人公〉

「はい」

●正面 15センチ 下50センチ

「『どう話したらいいのかなあ……』という感じで」

君が出てくる夢なんだよ。それでねえ？」

〈主人公〉

「はい」

●正面 15センチ 下50センチ

■主人公が何だか照れている事と、夢の内容を思い出すと楽しくなってきた。なので、にやけて、からかうような感じになってくる

「【にやにやと嬉しそうに。どこか含みのある感じで】
それであ……？♡」

〈主人公〉

「そ、それで……？」

●正面 15センチ 下50センチ

「【にやにやと甘々に。どこか含みのある感じで。

『やっぱり今はあえて言わず、また同じ内容の夢を見たら改めて話す』という意味で言っている】

ん……。 やっぱ♡ また見たら教える♡」

〈主人公〉

「そうですか？」

●正面 15センチ 下50センチ

「【にやにやと甘々に。どこか含みのある感じで】

うん♡ 楽しみにしてて？♡」

〈主人公〉

「わ、わかりました……♡」

● 正面 15センチ 下50センチ

■ 自分が今保健室にいる経緯について話す

「【少しでも甘さ控えめな、通常のトーンになる。

養護教諭に感謝し、また申し訳なく思っているので。『先生Ⅱ養護教諭』
それでね？

昼休みだけ寝かせてもらってたんだけど、先生が『辛いならまた来ていいよ』って言う
ってくれて。

だから六時間目も休ませてもらってたんだ。

【ちよっと申し訳なさそうに】

はは、めっちゃ甘えちゃった」

〈主人公〉

「あれ、そういえば先生は……」

● 正面 15センチ 下50センチ

■ 養護教諭が今どうしているかについて話す

「あ、先生はね。呼ばれてどっか行っちゃった」

〈主人公〉

「そうなんですか……」

SE 4 鳴瀬が近づく音

【最初から最後まで流す】

【一気に正面へ近づく】

鳴瀬、身体を近づけて、耳打ちする。

● 左 0センチ 無声音ささやき

■ 布団にはくるまったまま、器用に接近して、左耳にささやく

「【※マークまでささやく。】

ゆっくりと、ひそひそと。どきつとするほど優しく。『ちよ＝しよ』

だから今、うちらだけだよ♡

おいで♥ 添い寝ちよ♥」※

〈主人公〉

「えっ！ えっ、でも……♥ いいんですかね……♥」

● 左 0センチ 無声音ささやき

■ 現在保健室には自分達以外誰もおらず、養護教諭も当分戻らなさそうな事を伝える

「【※マークまでささやく。

きやつきやと嬉しそうにしつつも、ひそひそと。『いっちょⅡ一緒』」

大丈夫だよ♥

具合悪くて寝てる子とかもないしさ？♥

先生も『しばらくかかるかも』って言ってたし。

ちよっとだけなら平気。

【ひときわ媚び媚び甘々に。

ダメ押しのように誘う】

おいで♥

いっちょに寝よ♥」※

〈主人公〉

「……………じゃあ、失礼します……………」

SE5 主人公が靴を脱ぐ音

【最初から最後まで流す】

SE6 主人公がベッドに入る音

【最初から最後まで流す】

鳴瀬、主人公が布団に入り始めた事で、少し離れる。

●左 30センチ 無声音ささやき

■鳴瀬が布団の左側、主人公が右側にいる形でベッドに入る。

距離は30センチ離れた状態で、またささやく

「【※マークまでささやく。】

きやつきやと嬉しそうにしつつも、ひそひそと」

ふふ♡ やった……………♡

学校で初同衾（はつどうきん）。だね♡」

〈主人公〉

「ど、同衾って♡」

鳴瀬、ベッドの中で少し近づく。主人公が顔をこちらに向けた事で、向きが正面になる。

●正面 15センチ

■お互い横向きに寝て、見つめ合った状態で話す

「【にやにやと嬉しそうにとぼける。

『同衾』には『セックス』という意味もある事を理解した上で、わざとやっている】

え〜？♡

同衾、って。『一緒に寝る』って意味でしょ？

他に意味あったっけ♡」

〈主人公〉

「もう♡先輩ったら、えっちなんですから……！」

●正面 15センチ

「きゃっきやと嬉しそうに。主人公の反応が可愛いので」

あは♡ からかってごめんね？♡」

鳴瀬、ベッドの中でさらに近づいて、キスする。

SE7 鳴瀬が近づく音

【最初から最後まで流す】

【だんだん近づくいてくる】

● 正面 15〜0センチ

■ 近づいて、横向きに寝たままキスする

「※1回※ 唇にキスする。

軽く触れるだけのキス」

ちゅ♡

〈主人公〉

「あ♡」

●正面 0センチ

■寝転がる。

主人公の上になり、押し倒す形で、主人公をベッドにあおむけに寝かせた状態でキスする

「【※2回※】唇にキスする。

軽く触れるだけのキス」

ちゅ。ちゅ♡」

〈主人公〉

「せ、せんぱい。 学校でキスはちよっと……♡」

鳴瀬、少しだけ離れて、主人公を見下ろした状態で話す。

●正面 15センチ 上 15センチ

■主人公を正面から見下ろす形で話す

「【甘々媚び媚びに、残念そうに。

だが、主人公が拒否しつつも、全く嫌がっていない事は理解している感じで」

えく……？♡

キス駄目？♥ 学校だからあ？♥」

鳴瀬、主人公のすぐ右側に寝て密着する。

SE7 鳴瀬が近づく音2

【最初から最後まで流す】

【左耳側に近づく】

●正面 15センチ 上15センチ 右 0センチ

■押し倒した状態から、右耳側に移動しながら話す

「【甘々媚び媚びに。『これならいいでしょ？』という感じで】

じゃあ♥ もっとくっついて寝よ……？♥
ね？♥」

〈主人公〉

「もう……♥ その位なら、いいですけど……」

●右 0センチ

■主人公の右耳に接近した状態で話す。密着した胸同士から、主人公の鼓動が伝わってくる

「嬉しそうな、満足げな溜息をつく」

ふう……♡

【思わず漏れてしまった感じで。満足げに笑う】

ふふ♡

【嬉しそうに指摘する】

……心臓めっちゃドキドキしてんね。

かわいく♡」

〈主人公〉

「……！」

SE8 鳴瀬がベッドで動く音

【最初から最後まで流す】

【次の『鳴瀬』のセリフと重ねて流す】

●右 0センチ 上 15センチ 不規則に動かす

■主人公の髪の毛の匂いを嗅ぐ。少し頭が動く

「【※6回※】とてもゆっくりと呼吸する。

ゆっくり吸って吐いて、主人公の髪の毛の匂いを、うっとり嗅いでいる」

すう……はあ……すう。

すう……はー……すう……♡

「うっとり、とても嬉しそうに」

いい匂い……♡

「【※6回※】とてもゆっくりと呼吸する。

ゆっくり吸って吐いて、主人公の髪の毛の匂いを、うっとり嗅いでいる」

すう……はあ……すう。

すう……はー……すう……♡」

〈主人公〉

「……♡……♡……」

主人公、うっとり密着しているうちに、とある事に気づく。

気づいた途端、あからさまに反応する。

鳴瀬はすかさず、髪の毛の匂いを嗅ぐのをやめ、右耳に密着した状態に戻る。

● 右 0センチ

■ 主人公の様子に気づいて。内心『やっと気づいたか!』と思っている

「甘々に優しく。でもにやにやを隠しきれない感じで」

ん? 何? ♡ もぞもぞして」

〈主人公〉

「…… ♡ ♡」

● 右 0センチ

「甘々に優しく。でもにやにやを隠しきれない感じで」

ん? ♡」

〈主人公〉

「せ、先輩……!」

● 右 0センチ

「嬉しそうに。『仕掛けに気づいてもらえたのが嬉しい』という感じで」

あ♡

「しれつと言う。あえてにやにやしそうなのをこらえている感じで。

『氣いついた？』『氣が付いた？』『そだよ』『そだよ』

氣いついた？ そだよ？」

● 右 0センチ 無声音ささやき

■ 自分の下半身について述べる。鳴瀬は現在、防寒対策で毎日タイツを履いており、今日もそうして登校した。だが今は、主人公に生足を触らせるために、わざと脱いでベッドに入っていた。布団から身体を出さなかったのはこのためである

「【※マークまでささやく。

しれつと、だが甘々に言う。

最初はこらえていたが、だんだんにやにやを抑えきれなくなる感じで」
履いてないよ？

タイツ。

君が来るから♡ 靴下とタイツ脱いで♡ 待ってた♡」※

〈主人公〉

「ど、ど、ど。どうしてそんな事を……！」

● 右 0センチ

「媚び媚び甘々に。」

『暑い』は嘘で言い訳。『主人公に自分の足を触らせたい』以外の理由はない」
えく？♥ だって、暑いし。

「にやにやと嬉しそうに。」

最初は『太腿』と言おうとしたが、厳密には『内腿』を触らせなかったので、言い換える」

君、この……何（なに）？ 内腿（うちもも）？ 好きじゃん？♥

「しれっと言う」

だから、触りたいかなうって、思ってた♥」

〈主人公〉

「……！」

● 右 0センチ

「不意に声のトーンを優しく変えて。」

主人公をドキッとさせた、何が何でも足を触らせたいので」

ほら」

● 右 0センチ 無声音ささやき

■ 主人公の手を、自分の内腿の間に導き、触るように促す

「【※マークまでささやく。ひそひそと、あまあまに。

『お手手気持ちいい奴Ⅱ鳴瀬の身体を好きなように触る事』

足と足の間に手え挟んですりすりする奴、していいよ？♥

お手手気持ちいい奴、好きでしょ……？♥※

〈主人公〉

「あ……♥」

SE8 鳴瀬がベッドで動く音2

【最初から最後まで流す】

【次の『鳴瀬』のセリフと重ねて流す】

● 右 0センチ 無声音ささやき

■ 自分から足を動かす事で、主人公の手を自分の足に擦り付ける→主人公の耳を不意打ち

で吹く

「【※マークまでささやく。ひそひそと、あまあまに】

こうすると君は♥

幸せなんだもんね〜……♥ ※

【※1回※ 少し間をあけて、不意打ちのタイミングで、軽く耳を吹く】
ふっ♥」

〈主人公〉

「あ……！」

● 右 0センチ

■ 主人公の耳を吹いて、反応を楽しむ

「【※2回※ 優しく耳を吹く】

ふ〜……ふっ♥

「こらえきれずに笑いだす。とても嬉しそうに】

ふふふふふ♥」

〈主人公〉

「せんば……♡」

SE9 鳴瀬がベッドで動く音3

【最初から最後まで流す】

【繰り返して流す】

【次の『鳴瀬』のセリフと重ねて流す】

【▲4 でフェードアウトする】

● 右 0センチ

■ 主人公の耳を吹いて、反応を楽しむうさらに足を動かして、触らせる。

そのせいで、紐パンの紐が片方ほどけた事に気づくが、まだ何も言わずに続行する

【※1回※ 不意打ちで、軽く耳を吹く】

ふっ♡

【どきつとするほど優しく。

主人公をねぎらい、触るように甘く促す。『ちな♡しな』】

……一杯触りな？

今日も授業頑張ったね♡

お手手嬉しくなって、リラックスちな？♡

【※セリフ終わりまで※

足を動かして、主人公の手に擦り付けながら話しているイメージで話す。

『したげるⅡしてあげる』

こうやって……動かして。

手の甲にも、一杯すりすりしたげるね？

【※4回※ とてもゆっくりと呼吸する。リラックスしつつも、気持ちよさそうに】
……すー。はー……。すー……。っ、はー……。

【漏れるように、嬉しそうに笑う】

ふふ♡

【※6回※ ゆっくりと呼吸する。リラックスしつつも、気持ちよさそうに。

先程よりも興奮し始めている感じで】

すーっ……はー……。

はー。はー。はー。はー……♡

【漏れるように、かすかに喘ぐ】

……ん……♡

【甘くからかう。『ちゆきⅡ好き』

もう、めっちゃ触ってんじゃん。ちゆきだねえ♡

【※6回※ ゆっくりと呼吸する。リラックスしつつも、気持ちよさそうに。

先程よりもさらに一段階興奮し始めている感じで」

ふう……はあ……ふう。

ふー……♡ ふー……♡ ふーっ……♡

【漏れるように、かすかに喘ぐ】

あ……♡

【※3回※ 呼吸する。呼吸が早くなってきた】

ふう、ふう、ふー……♡」

● 右 0センチ 無声音ささやき

「【※マークまでささやく。『ちやあわせ♡幸せ』】

なるの太腿、すべすべで気持ちいいな？♡

お手手嬉しくて、ちやあわせだな？♡※

▲ 4 ここでSEE9がフェードアウトする

● 右 0センチ

■ 耳にキス♡耳舐め♡甘く誘惑しつつ、あえて好きにさせない事で、ますます主人公の興奮を煽っていく

【※1回※ 耳にキスする】

ちゅ♡

『しまった』という感じで。

『学校ではキスしない』という約束を、キスしてから思い出したという感じで】

あ……♡

ごめん……キスしちゃった。

【※5回※ 耳舐めする。

わざと音を立ててその気にさせる耳舐め】

あんむ……ちゅ♡ ちゅっ♡ ちゅっ♡ ちゅふうっ♡

【※6回※ 呼吸する。興奮気味の呼吸。

だんだんゆっくりになって行って呼吸を整えようとしている】

はー、はー、はー。

はー……♡ はー……♡ はー……♡

【にやにやと。主人公の反応を見て、欲情していると確信している。

『ちてⅡして』『気持ちになってきちゃったⅡ気持ちになってきちゃった』】

んん……？♡

むらむらちてきた？♡

えっちな気持ちになってきちゃったの？♡

【甘く優しく。主人公の興奮を受け止める】

はは。なるのあんよ、そんなに気持ち良かったんだ。

可愛いね……♡

■あえてすぐに好きにさせない事で、もっと主人公を興奮させようとしている。

そのために、先ほど主人公が言った事を引用する

【わざとらしく、残念そうに】

でもさあ、学校でえっちな事はダメだよね？

学校だもん。キスだって駄目だもんね。さっきしちゃったけど。

人として……ねえ？ それは駄目だよ」

〈主人公〉

「……………」

●右 0センチ

「でも……♡ 一個お願い、してもいい……？」

SE10 鳴瀬がベッドで動く音4

【最初から最後まで流す】

〈主人公〉

「え？」

● 右 0センチ

「甘くかすれた声で。ちょっと恥ずかしそうに」

あのね……？」

〈主人公〉

「……？」

● 右 0センチ ささやき

■ 紐パンの紐が片方ほどけてしまった事を打ち明け、誘惑のネタにする。正直ここまでは想定外ですごく恥ずかしいが、このハプニングも利用して主人公を喜ばせたいので

「【※マークまでささやく。

あまあまに、ひそひそと、ちょっと恥ずかしそうに」

パンツの紐……解（ほど）けちゃってるかも。

大丈夫か、確認してくれる……？」※

〈主人公〉

「……!? パ、パンツって……♡」

● 右 0センチ

「【ちよっと恥ずかしそうに、でも嬉しそうに。『する』セックスする』」

そう……今日ね、紐パンなんだよ♡

一昨日（おととい）買ったの。

……今日、すると思ったから。

気合い入れてきちゃったんだ……♡」

〈主人公〉

「そ、そうなん……ですかっ……♡」

● 右 0センチ

■ 下着を買った経緯と、その際のエピソードを述べる。

買った事もこの件を話す事も恥ずかしくはあるが、同時になんだか嬉しい

「【あまあまに、ちよっと恥ずかしそうに。

ちよつとにやにやしてくる。主人公の反応が可愛らしいので。『氣いする〓氣がする』
そうだよ？

何（なん）か最近、おっぱいおつきくなつた氣いするからさあ……♡
ブラと一緒に新しいの買ったの。

君の好きそうな可愛いのに、一生懸命探したんだよ？♡

実はさ、大分（だいふ）冒険しちやつてんの。

……でもあたしなんかさ？

店員さんからしたら、ただの頑張つてるガキじゃん？

『全然普通です』みたいな顔して買ったけど、絶対紐パンデビューなのバレてたと思う
んだよね。

【少しひそひそ、にやにやと】
結構恥ずかしかったよ……♡
」

S E I I 鳴瀬が布団をめくる音

【最初から最後まで流す】

● 正面 15センチ

■布団をつまんで、少しめくって、あまあまに誘惑する。覗いても見えない程度のめくり方だが、主人公はこれで十分に興奮する

「あまあまに、ちよつと恥ずかしそうに。

ちよつとにやにやしてくる。主人公の反応が可愛らしいので」

ほら……見て……？

君に見せる為に買ったんだからさ……♡
ね？」

〈主人公〉

「だ、だめですよ……！ 学校なんですから……！」

鳴瀬、主人公が慌てて身を引いた事で、距離が少し離れる。

●正面 15センチ

■少し離れた位置で、にやにや主人公を見つめて

「【にやにやと嬉しそうに。

『めくらないとIIスカートをめくらないと』『紐大丈夫II紐がほどけていないか』
えく……？ ♡

だって、めくくしないと紐大丈夫かわかんないじゃん♡」

鳴瀬、布団から出てベッドの上に膝立ちになる。
これに合わせて、主人公も体を起こす形になる。

SE12 鳴瀬が布団から出て、膝立ちになる音

【最初から最後まで流す】

SE13 鳴瀬が自分のスカートをめくる音

【最初から最後まで流す】

●正面 30センチ

■布団から出てベッドの上に膝立ちになる。

それから、両手で制服のスカートを抱く形でめくりあげて、下着を見せつける。
目視して確認はしていないが、紐がほどけている事はほぼ確信している

「【あまあまに、少し恥ずかしそうに。『ちゃんと穿けてる!! 下着の紐が解けていない』
ほら。両手でこうやってスカート持ってるから。

ちゃんと穿（は）けてるか、見て……? ♡」

〈主人公〉

「……あ……っ」

● 正面 30センチ

■ 主人公の反応からして、返答を待つまでもなく、解けていると確信する
「『あまあまに、少し恥ずかしそうにおねだりする。『くれゆ〓くれる』
ん？ ♡ やっぱり解（ほど）けてる？
じゃあ、直してくれゆ？」

〈主人公〉

「ご、ご自分で直していただけませんかっ……♡」

● 正面 30センチ

■ さすがにちよつと刺激が強すぎるかなと理解している。
なので、しつこくおねだりせずに、別の提案をする

「『あまあまに、残念そうに。しかし食い下がらず、素直に従う』
え？ ♡」

んゝわかった、自分で直すからさあ、今度はスカート持ってきてくれる？」

〈主人公〉

「あっ……？　それ……なら……？」

SE14　主人公がベッドで動く音

【最初から最後まで流す】

鳴瀬、主人公が了承した事で、少し近づく。

●正面　15センチ

■主人公に制服のスカートをめくらせる。

これによって両手があいたので、自分で下着の紐を直そうとする。

だが、下着に手をかけたところ、もう片方の紐まで解け、下着が完全に落ちる
「【照れ笑いして、少し恥ずかしそうに。

ゆっくりと。一行ごとに少し間があく感じで」
へへ。

そう。

そうやって、めくってて♡

【漏れ出るような呼吸。少し興奮気味に】

んふっ……♡

【少し驚いて。下着に手をかけた瞬間、もう片方の紐まで解けてしまったので】

あ……！♡」

SE15 鳴瀬の下着がベッドに落ちる音

【最初から最後まで流す】

〈主人公〉

「！」

● 正面 15センチ

■ 予想外に、自分の股間を主人公に見せつけてしまう。

それでも、主人公、鳴瀬とともに、慌てて下着を拾う事はしない。

鳴瀬は主人公が、自分のお願いを律義に聞いてスカートを持ったまま、だが自分の股間を凝視しているさまが可愛くて仕方ない

「照れ笑いして、かなり恥ずかしそうに。

今までとは違い『ガチ照れ』という感じで」

……はは。

こっちの紐まで解けちゃったね……？ ♡

「あまあまに恥ずかしそうに。

自分の股間を凝視する主人公を見ると少し余裕が戻って『恥ずかしい』より『嬉しい』が強まってきたので」

学校なのに、おまんこ見せちゃった…… ♡

学校で見せるのは、初めてだね…… ♡

へへ………」

〈主人公〉

「あ、の ♡ やっぱり、なる先輩がスカート持っして下さい……！」

● 正面 15センチ

■ 主人公の意外な提案に驚きつつ、興奮する。元々は下着を見せるだけのつもりだったのに、最終的には保健室で股間を見せつけ、下着を穿かせるなどという展開になってしまった。

それに、恥ずかしいが興奮している

「少し意外そうに。主人公の提案に驚いているのでへ？ あ……………」

〈主人公〉

「わたしが……直しますから………」

●正面 15センチ

「【※3回※】呼吸する。かなり興奮気味に」

はー、はー、はーっ……………」

【あまあまに了承する】

うん♡ わかった♡

なるがスカート持つからパンツ穿（は）かせて？♡
なるのパンツの紐。結んで……………」

SE16 主人公が鳴瀬の下着を直す音

【最初から最後まで流す】

■スカートの紐を結んでもらっている

「漏れ出るように小さく喘ぐ。

ゆっくりと、一行ごとに少し間があく感じで」

あ……っ♡

ん♡

あ……っ♡」

〈主人公〉

「なる先輩……♡」

●正面 15センチ

「【※5回※ 呼吸する。かなり興奮気味に】

ふーっ♡ ふーっ♡ ふーっ♡ ふーっ♡ ふーっ……♡」

〈主人公〉

「キスが、ダメって事は。

やっぱり、えっちなダメなんですよね……？♡」

鳴瀬、主人公が近づいた事で距離が近づく。

● 正面 0センチ

■ 主人公が露骨に興奮している事で、余裕が戻ってくる。

また、あえてすぐに許可しない事で更に興奮を煽ろうとする。

だが、鳴瀬も本当は今すぐセックスしたくてしょうがない。興奮で頭がおかしくなりそう。

その流れで、本当は最初から下着を見せつけるつもりで待っていた事を告白する

「【あまあまに、だもったいぶって】

うん……そうだよ？ ♡

キスが、ダメなんだから。

学校のえっちもダメだよ……？ ♡

【さらにあまあまに。『スタンバってⅡベッドで準備して、待機して』】

……でも、想像はしていいんだよ？

ほんととは最初っからこうするつもりで。

ドキドキしながらスタンバって。パンツ見て欲しくて待ってたあたし、想像して……？



【照れ笑いして、恥ずかしそうに。

『そこそこにガチ照れ』という感じで」

へへ………♥

まさか、おまんこまで見せちゃうとは思ってなかったけどね………♥」

〈主人公〉

「すごい、想像します……。嬉しいですから……。♥」

●正面 0センチ

■主人公の言葉に喜びつつ、次の提案をする。それは『学校では無理だけど、自宅ではセックスしてもいいから、今すぐ行こう』というもの

「【にやにやと、とても嬉しそうに】

えへ………? ♥ うれちい? ♥

【ひとときわあまあまに。『エへロへロいね』『好きな風にしてへ好きなようにして』】

エへロ………♥

あたしも嬉しいよ………♥

そしたらさ………? ♥

好きな風にしていいから」

鳴瀬、主人公の左耳側に移動してささやく。

● 左 0センチ 無声音ささやき

■ 近づいて、左耳にささやく

「【※マークまでささやく。

どきつとするほど優しく。『続きⅡえっちな行為の続き』
なるんちで続きしよ……♥」※

ここでフェードアウトして終了。